



陶史の森からのご案内

バードウォッチング（自由参加）
1月25日（日）、2月22日（日）

午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堰堤です。

◇冬は木の葉が落ち野鳥を観察しやすい季節です。ぜひ野鳥たちに会いに来てください。

スズメ目ホオジロ科のカシラダカは、全長約15センチメートルで、スズメより少し大きい小鳥です。冬になると陶史の森へやって来ます。木や茂みのある開けた場所の地面を跳ね歩きながら、草木の種子を食べて暮らします。群れで生活することが多く、地鳴きは「チツ」と細く小さく聞こえるのが特徴です。春先には、ヒバリに似た明るい声で複雑なさえずり方を立て、頭全体が三角形に高くなるので「カシラダカ（頭高）」と名付けられました。

頭の羽がチャーミング 一カシラダカ

頭の羽が立っていない時はホオジロとよく似ていますが、腹部の色合いで見分けられます。ホオジロは栗褐色なのに對し、カシラダカは白色です。カシラダカは、ツグミとともに飛来数の多い冬鳥といわれてきました。最近は数を減らしています。ホオジロなどの小鳥に混じって群れをつくることが多く探しにくいですが、見つけるとホッとします。緊張して頭の羽がピヨンと立ち上がる姿や、小さな体で地面をちょこまか歩き回る健気な姿に心が癒されます。ぜひ見つけてください。

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)

トキハクプロジェクト
新博物館準備だより

土岐市には、市指定文化財となっている陶製のこま犬が9体（4対1体）存在します。2対1体は下石の八剣神社に、2対は泉の大富白山神社に安置されています。こま犬の背には奉納年や奉納者名、制作者名、村中安全などの願いが彫り込まれることがあり、何かの折に特別に制作し、神社に奉納されたことがうかがえます。陶製こま犬を制作し奉納する文化は、陶磁器生産が盛んな東海地域特有のもので、特に江戸時代の奉納例が多くみられます。こうした歴史を背景に、地域に残る文化資源を地道に調査するのも学芸員の仕事です。これまで蓄積された調査研究をもとに、地域の方からの情報提供なども踏まえて土岐市を中心調査してみると、東濃地域には50件を超える陶製こま犬が存在することが分かりました。合わせて、神社に残る文献史料の調査を進めることで、陶製こま犬がどのような機会に奉納されてきたのかを探っています。

第21回 巨大な陶製こま犬に会いに行こう



白山神社の陶製こま犬

当館では、2月14日に開催する学芸員と学ぶ講座「やきものの大狛犬に会いに行こう！」で、陶製こま犬の調査成果をお伝えするとともに、白山神社に残る市指定文化財の陶製こま犬2対の見学会を行います。江戸時代に制作された美濃地域最大級の陶製こま犬に会いに行きませんか。

申込方法 当館に電話かメールでお申し込みください。詳しくは、2次元コードをご確認ください。